

指定管理者による管理運営の実施状況報告

- 1 施設名：甘木歴史資料館
- 2 指定管理者名：朝倉市
- 3 指定期間：平成31年4月1日～令和6年3月31日
- 4 施設設置目的：甘木朝倉地方の考古・民俗・歴史資料の収集、保存及び展示
- 5 管理運営についての点検結果（令和2年4月1日～令和3年3月31日）
 - (1) 点検方法：事業報告書、現地確認、ヒアリング等をもとに指定管理者による管理運営の実施状況の点検を行った。
 - (2) 点検結果：別添のとおり

①管理運営状況総括表

大項目	事業計画（取り組みや改善の内容等）	管理運営の概要
①公共性（公益性）の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の特徴ある歴史民俗資料や各種文化財の調査研究、資料の収集や保存に努め、調査研究成果を積極的に展示及び公開する。 ・講座等の展開を通じ、文化財保護の普及に努め、施設の市民開放についても積極的に進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民から提供された資料を展示に生かすとともに、市民自主研修を積極的に受け入れた。 ・甘木歴史資料館だより「温故」を発行し調査研究成果を公開した。
②施設利用及びサービス向上	<ul style="list-style-type: none"> ・企画展に伴う形でギャラリートーク（展示解説）、公開講座を行うとともに、年次計画を基に講座を企画する。 ・子ども向け歴史講座を企画する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・秋季企画展「甘木絞りの美—田中コレクション特別展示—」を開催するとともに、関連してワークショップやギャラリートークを行った。 ・新春企画展「郷土の日本画家・徳田玉龍FINAL」を開催した。 ・企画展示図録を作成し、利用者の利便性を高めた。 ・郷土の伝統工芸である甘木絞りに親しみをもってもらうことを目的としてこども歴史教室「甘木絞り体験講座」を実施した。 ・朝倉高校史学部との連携企画として、同部の調査成果を紹介するパネル展を実施した。 ・歴史資料館学習講座「ひみこ」を7回開催した。 ・石造物調査隊を実施し、市民協働の調査を実施した。 ・入館者数 3,898人（対前年度比56.9%） ・高齢者・障がいのある人に対して、必要に応じて職員によるドアやエレベーターの開閉等対応している。
③経営（収支）改善	<ul style="list-style-type: none"> ・報酬等、人件費の抑制に努める。 ・旅費や使用料等の支出軽減に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・委託料実績 10,486千円（対前年度比100%） ・学芸員が事務員を兼ねるなど、人件費抑制に努めている。 ・日常から職員が環境整備に積極的に取り組むなど、コスト削減に努めている。
④職員確保方策及び健全な財政基盤	<ul style="list-style-type: none"> ・館長、副館長、事務学芸員を配置し、必要に応じて市職員との連携を図る。 ・常設展、企画展の企画及び管理にあたっては朝倉市との連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝倉市文化課兼務常勤館長1名、県派遣学芸職員1名（副館長）、常勤嘱託学芸員（3名）を配置。 ・朝倉市文化課職員2名を資料館担当とし、展示や運営に協力するなどの連携を図った。
⑤施設管理上の個別事項	<ul style="list-style-type: none"> ・収集した資料は燻蒸処置を行い、収蔵庫において湿度等に配慮しながら資料の管理保全に努める。 ・収蔵した資料は管理台帳に登録し、保存状態の把握に努め、その状態及び性質に応じた管理を適切に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・収蔵した資料については事業計画に沿って適切に保存している。また、資料管理台帳の整備を引き続き進め、その状態及び性質に応じたより適切な管理に努めている。 ・安全対策・危機管理に関しては、各種設備の法定点検及び定期的な消防訓練の実施により、適切に対応している。 ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策として、体温確認、消毒液の設置、換気等を実施し、感染拡大防止に努めた。

②点検結果

<input type="checkbox"/> A+（提案内容を上回った） <input type="checkbox"/> A（提案内容をやや上回った） <input checked="" type="checkbox"/> B（概ね提案内容どおり） <input type="checkbox"/> C（提案内容をやや下回った） <input type="checkbox"/> D（提案内容を下回った）	【総合コメント】 常設展や企画展のほか、関連するワークショップやギャラリートーク、学習講座等の活動を継続するとともに、市民の自主研修のために施設を開放することで地域住民が歴史・民俗資料に触れる場を提供している。 九州北部豪雨により被災した文化財について、引き続き九州歴史資料館と連携して科学的保存処理後の清掃等を実施し、文化財の保護に努めた。 昨年度と比べての入館者数減少は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のためにイベント（バスハイク等）の中止や休館の対応をしたことの影響が大きいと考えられる。
---	---